18　手話通訳学科における動画共有サービスの活用について

学院手話通訳学科　野口 岳史・宮澤 典子・木村 晴美・市田 泰弘

学院手話通訳学科における学習の目標言語であり、通訳においては起点言語にもなる日本手話は、「視覚言語」である。そのため、その言語資料の教材化にあたっては、「動画」の形態をとる点が大きな特徴となっている。動画教材については、内容はもとより、その利便性が教育効果を大きく左右するという認識のもと、本学科においては学科設置当初より一貫して、動画教材の作成・管理・使用に関し、その時代の最先端の技術を活用するよう努めてきた。たとえば、1990年の学科設置時には、S-VHS 規格によるビデオ編集システムと、再生用デッキとモニターからなる個別学習システムを整備、1998年には新学院棟への移転にあわせて、DV規格のノンリニア編集システムとマルチダビングシステムを導入した。その後、動画技術のデジタル化の進展に合わせ、2002年に学科内LANを構築して、動画サーバと閲覧用端末（ノートパソコン）による授業および個別学習の新システムを導入、既存教材のDVD化・電子データ化も並行して進めた。2011 年には学生用デスクトップパソコン導入を機に、磁気テープによる個別学習システムを廃止し、動画閲覧のデジタル化を完了した。また、動画撮影に関しても、ハードディスク内蔵型ビデオカメラや動画撮影機能つきのモバイル機器が普及、動画に音声を加えるアフターレコーディング（「日本手話⇒日本語通訳（読み取り通訳）」の授業などで、教材動画に合わせて通訳者が発した日本語を録音する）についてもビデオキャプチャー機器の利用が可能になり、教材や学生提出物の作成過程においても、磁気テープを介在させる必要がなくなった。

そうしたなか、さらに時代はタブレット端末の普及、そしてクラウド・コンピューティングの本格化へと進んでいる。なかでも、近年のインターネット上の動画共有サービスの発展は目覚しい。そこで、現在、本学科では、動画共有サービスの「限定公開機能」に着目し、教官による学生への課題教材の提示、学生による提出物の提出、学生提出物に対する教官のコメント等の提示、教官による模範解答の提示などに、動画共有サービスを活用している。

(1) 課題教材や模範解答の提示では、インターネットに接続した機器を用いて授業中に映写するだけでなく、アップロード動画のURLを学生に周知することで、学院内の個別学習システムや、学生の自宅パソコン、通学途中のモバイル機器からも閲覧することが可能となる。

(2) 学生による提出物の提出では、学生が個別に取得したアカウントと学科共有のアカウントを使い分け、各自が課題提出用に撮影した動画を限定公開の形でアップロードする。その後、動画のURLを担当教官に連絡することによって、課題の提出が完了する。

(3) 学生提出物へのコメントでは、アノテーション機能を利用することにより、学生が共有アカウントでアップロードした動画に直接コメントを書き加えることができる。

本学科では今後とも、タブレット端末の導入、既存教材のクラウド化、広報活動などにおける外部公開、遠隔教育の可能性につながるインターネット中継などについても、積極的に検討し、試行を重ねていく予定である。